

つくラッセル

調査団体名	: つくラッセル	団体代表者名	: 戸田友介
設立年	: 2018年	対応してくれた人の名前	: 戸田友介
団体URL	: http://tukurassell.life/	調査員	: 神本 崇、宇野利幸
活動拠点	: 愛知県豊田市旭八幡町堂山432-3 (旧築羽小学校)	レポート作成者	: 神本 崇、宇野利幸
取材日	: 2018年12月6日		

名前『つくラッセル』の由来と活動内容

『つくラッセル』は、「あのじいちゃんは、ようつくらっせるなあ」という旭の方言、「つくる」に尊敬の気持ちをこめた言葉にちなんで名づけられました。その名のとおり「あんなことできるかな?」「やりたい!」と色んな想いをカタチにしながら、さまざまなモノやコトがおこりはじめています。

・ 2012年に廃校となった旧築羽小学校を再活用し、地域を担う人材創造拠点として2018年OPENしました。運営は「つくラッセル推進コンソーシアム」が担っています。このコンソーシアムは、民間企業、大学、一般社団法人、自治体の協議会であり、代表機関である株式会社M-easyが運営を担っています。戸田友介氏は、株式会社M-easyの代表であり、8年前にこの地に家族で移住してきました。出身は、北名古屋市です。

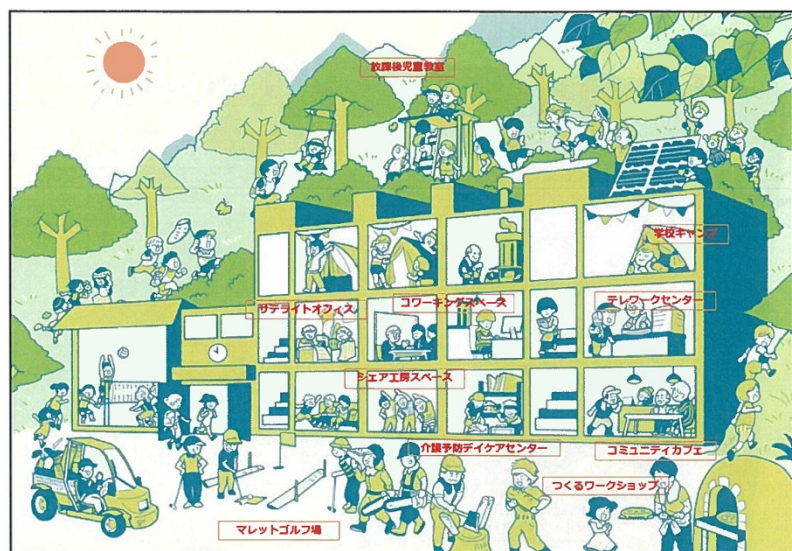
※参考(株式会社M-easyは「山村再生担い手づくり事例集2014年3月」「その後いかがお過ごしですか?プロジェクト2017年3月」で紹介)

・ 発足のきっかけは、2009年9月～2011年3月末にかけて旧旭町で実施された「日本再発進!若者よ田舎をめざそうプロジェクト」(若者PJ)。豊田市、東京大学、株式会社M-easyが連携して行った事業です。10名の若者が旧旭町に移り住み、安心安全な農業を中心に山里の暮らしを体験。さまざまな価値観の相違などの困難を経て、山里の豊かな自然環境、豊かな人間関係、豊かな暮らしなど「ここには価値あるものがあって、それを表現することが、自分たちの暮らしにつながる」ことに気づきました(その後いかがお過ごしですか?プロジェクトより)」と話しています。田んぼや畑、薪の宅配、農山村体験などさまざまな事業をおこなうだけでなく、高齢化で続けられなくなった新聞販売店を引き継ぐなど、地域に根ざした仕事づくりを行っています。

・ 地域に暮らす子どもたちからお年寄りまでみんなが集まったり、田舎暮らしに興味がある人が仲間を求めて集まったりする拠点となっています。いろいろな人たちがかわりあいを持ち、はたらく場、くらしつどう場所とし、さまざまな活動拠点となっています。何かアイデアをもっている人がいれば、その人の個性を生かし、まず実践。きっとうまくいく、そう思わせる何かがあります。

・ その他、『つくラッセル』には、レンタルオフィスやオープン会議室があり、電気室、図工室、休憩室、カフェ、マレットゴルフ場、などさまざまな機能を有しています。生活様式の変化から使われなくなった放置竹林解消の一助にならないかとメンマづくりに挑戦する事業がはじまったり、多種多様な仕事がつまっています。開館時間は平日の9時半～17時です。

・ 『つくラッセル』の運営を担っている株式会社M-easyは、何が本業なのかは、わかりません。しかし、その根底にあるのは、この地域で暮らす人たちがつながりあい、楽しく暮らしていけること。だから続けられます。



つくラッセル イメージイラスト



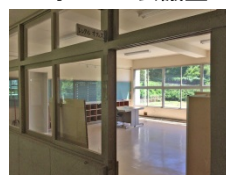
つくラッセル施設全景



オープン会議室



みんなの休憩室



レンタルオフィス



カフェ校長室

キャッチフレーズ

起点をつくりだす みんなのやりたいを叶える つどう、はたらく、つくる拠点

会のモットー(何を大切にしているか)

先ず始められることが大切。集まって来た人の得意なところを引き出し、やっていく。皆が心地よくなるようにまとめていく。勝手に広がっていく(広げていくではない)ことが大切。他力が大切。

設立から現在に至るまで変化したこと

つくラッセルは2018年4月15日に設立。8年前に移住し、さまざまな活動をする中で、地域の新しい拠り所として「つくラッセル」という拠点と位置付けた。スタッフが3人増えた。しごとは常にたくさんあり、常に忙しいが楽しい。

連携している団体・専門家・自治体など

活動が多岐にわたっているが、地域(流域)に腰を据えた取り組みが多い。そのため、広く見れば連携団体は数知れない。例えば矢作川水系森林ボランティア協議会・旭木の駅プロジェクト・名古屋大学COI・おいでん・さんそんセンター等があげられる。取り組みが増える度に連携団体も日々増えている。

流域圏の担い手づくりに関わる具体的な活動(例:小仕事づくり、地域資源の活用など)

2017年の第45回山部会WGで一度講師をおこなった。

内容・農村の廃校の利活用をめざす「つくラッセル」の活動紹介

http://www.cbr.mlit.go.jp/toyohashi/kaigi/yahagigawa/ryuiki-kondan/yama_20171215.html

現在直面している課題

山(田舎)で生きていくためには人が大切。この地域をより住みやすい環境にしていくために活動をしている。若者世代が増え、平成26年を境に小学生の人数が増えるようになってきた。

しかし、次の地域の担い手となる40、50代は、今の60、70代の人口の半分しかない。

若者世代のUターン、Iターンが増えていくような取り組みをするとともに、地域のさまざまな担い手を確保していくことが必要と考えている。

今後やってみたいこと

来年、家族的で暮らしの延長にあるような介護事業所を近隣の民家を活用して立ち上げたい。

つくラッセルとも関連しながら、産まれるから死ぬまでをサポートしあう事業として、地域づくりをしていきたい。

そのためにはどんな情報・人脈が必要か

地域の困っていることを手助けしていく便利屋のような事業をおこない、現場で生のニーズをキャッチする仕組みをつくりたい。人と人がお互いにつながっていくような環境づくり、つくラッセルはその人脈づくりの拠点でもある。

チームオリジナルの質問

<質問内容> 将来どうしたいですか。

<答え> コミュニティーを大切にしたい。困っている人を見捨てない環境を作っていきたい。

新しいことをみつけ、どんどんやっていきたい。

その他、伝えたいこと

ぜひ一度遊びに来てください。

住所：豊田市旭八幡町堂山432番地3(旧築羽小学校)
旭地域バス：つくラッセル前バス停 下車

写真



取材風景

お忙しいスケジュールに組み入れていただき、取材させていただきました。取材前も1件打合せ中でした。取材中も電話での打合せがありました。超多忙の戸田さんです。



旭地域バス「つくラッセル前」バス停です。平日12時から20時まで旭内は地域バスで移動できます。豊田市街からは乗り継ぎとなります。おいでんバス(豊田市～小渡)、旭地域バス(小渡中央広場～つくラッセル前):毎週火・木運行



活動拠点の旧築羽小学校です。